

白鬚神社の保存修理

50年ぶりの本格修理

令和5年6月に始められた白鬚神社の保存修理工事が、3月末に完了の見込みとなりました。今回の修理では、約2年をかけて本殿および拝殿の耐震診断、屋根檜皮葺き替え、構造補強、木部補修、金物補修等が行われました。なお、本殿は重要文化財に指定されていることから、工事の設計監理および施工は文化財保存修理の専門技術と経験を持つ業者が請け負うとともに、文化庁や滋賀



屋根葺き替えのようす

県文化財保護課の指導を得て進められました。また、本殿部分の修理経費の一部については、国、滋賀県、高島市からの補助金が充てられました。白鬚神社で前回同様の保存修理が行われたのは、昭和49年（1974）のことでしたので、今回は約50年ぶりの本格的な保存修理となりました。

これまでの経緯

白鬚神社本殿は、棟札および内陣嵌板の墨書銘から、豊臣秀吉の息子・



葺き替えを終えた拝殿の屋根

秀頼の命によって、片桐且元が奉行となつて慶長8年（1603）に建てられたものであることが分かっています。桁行3間、梁間3間の入母屋造りで、内部は前方の1間を外陣、次の2間を内陣とし、中央背面寄りに祭壇が設けられています。残される棟札や記録等から分かる限りでは、寛永元年（1624）に拝殿が建立され、明和6年（1769）に屋根の葺き替え、安永7年（1778）には正面木階、縁および高欄廻り、軒先支柱等の修理が行われています。そして明治12年（1879）に現在の拝殿が本殿に接続する形で建立され、明治41年には檜皮葺きによる屋根の葺き替えが行われました。さらに、昭和13年（1938）に国の文化財に指定された後の昭和21年には、国からの補助金を受けて屋根の葺き替えが行われました。

令和の保存修理

今回の保存修理事業では、施工に先立ち、本殿および拝殿の耐震診断が実施されました。重要文化財の保存修理では、今後想定される大地震に備えて耐震性能向上の検討を行う

ことになっており、白鬚神社でも、一部の耐震性能不足の診断結果を受け、必要な耐震補強工事が追加されることになりました。さらに、老朽化していた避雷設備についても機能向上や一部取り替えなどが追加で実施されました。

自然災害が多発する近年の状況を踏まえ、防災対策の強化が図られた点も今回の保存修理の特徴の一つといえます。

問 文化財課

☎（25）85559

編集 雑感

現在、湖西線の一部駅で「湖西線アートプロジェクト」が実施中です！集めるのが楽しくなるスタンプラリーや、湖西線に関する情報が発信されている湖西線博物館、そして、「駅恋」というノベルゲームなどが展開されています。他にも4ページからの特集2では、さまざまな公共交通をお得に利用する方法などが紹介されていますので、暖かくなるこれからの季節、公共交通に乗って市内をお出かけしてみませんか？(K)



広報たかしま

令和7年

3

月号
No.302発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒510-0802 滋賀県高島市新旭町北畑のろ番地☎0740(25)8000(代)
https://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp